

令和7年（2025年）度行政評価シート【個表】 令和 7 年 6 月 27 日

評価対象事業		評価者	都市計画課担当課長 大江 尚	
まち-10	交通環境整備事業	☒ 自治事務	主管課	都市計画課
		☐ 法定受託事務	関連課	
総合計画上の位置付け	分野	5-(3) 総合交通	施策の方針	5-(3)-①交通環境の整備

1 事業の目的

対象	市民等
意図	安全で快適なまちをめざした交通環境をつくりだすため。
効果	公共交通機関における利便性の向上を図るとともに、慢性化する交通渋滞の解消や交通事故の減少を図る。

2 令和6年(2024年)度を実施した事業の概要

・市内の交通実態を把握し交通対策上の基礎資料とするため、交通状況(渋滞・交通量)に関するデータを収集した。
・「パークアンドライド」及び「鎌倉フリー環境手形」について、関係事業者との調整を行った。
・パークアンドライド案内看板の維持修繕を行った。

3 事業を構成する事務事業(最小事業)実績

枝番号	事務事業	実施した主な事業 (主な経費等)	指標(単位)	令和6年度		令和7年度	達成度
				指標(実績値/目標値)		指標(目標値)	
				事業費(決算/当初)(千円)		予算額(千円)	
01	交通量調査事務	-		- / -	-	-	
				0 / 0	0	0	
02	「パークアンドライド」及び「鎌倉フリー環境手形」事務	パークアンドライド案内看板修繕 など	パークアンドライド、鎌倉フリー環境手形の利用数(台+枚)	8,021 / 38,000	38,000	38,000	21%
				805 / 1,059	1,012	1,012	
03	江ノ電社会実験事務	-	沿線住民等の利用状況(人)	0 / 200	200	200	0%
				16 / 12	11	11	
04	一般事務経費	消耗品等		- / -	-	-	
				799 / 804	838	838	
		財源内訳	国県支出金	/			
			地方債	/			
			その他特定財源	0 / 1	1	1	
			一般財源	1,620 / 1,874	1,860	1,860	
		事業費の合計(千円)		1,620 / 1,875	1,861	1,861	
		人件費(千円)			7,865	8,537	

4 この事業に関わる職員数(毎年度4月1日時点)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
正規職員等	1.3	1.1	1.1	1.4	1.0	1.0
会計年度任用職員	0	0	0	0	0	0

5 評価結果

(1) 最小事業評価

枝番号	事務事業	指標分析の推移、目標未達の理由	上位施策にどう寄与したか、構成する事業としての妥当性	事業実施上の課題、改善点
01	交通量調査事務	指標を設定しない。(交通量を定量的に測定するものであることから、指標の設定に馴染まないため。)	交通量調査を実施することで、市域内の経年的な交通量の実態を把握できるため、交通マスタープランにおける将来交通ネットワークのあり方等の検討などに必要不可欠な調査である。	調査にあたり国土交通省(以下「国交省」という。)が設置したAIカメラも活用しているが、通信障害によるデータの欠損が生じることが課題である。また市が設置したカメラについては維持管理に経常的な費用が掛かる、国交省からの国庫委託金の導入についても視野に入れ協議していく。
02	「パークアンドライド」及び「鎌倉フリー環境手形」事務	新型コロナ禍と比較し利用者は増加したが、入込観光客数に比例し、来訪者が減少していることから目標達成には至らなかった。	パークアンドライド等の利用は、自動車利用を抑制する交通需要マネジメント施策の推進に寄与するものと考えており、発展的に取り組むことで交通環境の改善に必要な取組であり、構成する事業としては妥当である。	パークアンドライド駐車場は、これまで国道134号沿道で実施してきたが、令和3年度に大船地域で初めて駐車場の運用を開始しており、今後圏央道の開通を見据えた駐車場の確保に取り組んでいく。 また、パークアンドライドの継続実施に向け、料金設定などの課題について関係者と協議していく。
03	江ノ電社会実験事務	社会実験は、ゴールデンウィーク期間中、江ノ電の利用者が増加することにより、日常生活に影響を受ける江ノ電沿線住民等を、駅構内まで優先的に入場させる取組であるため、実際に優先的に入場した人数を目標値とした。 令和6年度は、社会実験期間を三日間設定したが、駅構内への入場規制は行われず、優先入場は実施しなかったため目標値には至らなかった。	本取組は、江ノ電沿線の住民等の利便性向上に資するものであり、基本計画で目標とする交通環境の改善に必要な取組である。	入場待ちの列が発生する原因は、輸送量を上回る乗客が集中することであるが、物理的な輸送能力の増加に限らず乗客の分散化等、ハード、ソフトの面から、江ノ島電鉄㈱の対応は不可欠であり、改善すべき点について江ノ島電鉄㈱と協議していく。
04	一般事務経費	指標設定しない(一般の事務に供する消耗品等の購入であり、指標の設定は馴染まないため)	事務経費として必要不可欠である。	特になし。

(2) 視点別評価

効率性	事業費の削減余地はないか		1 事業費の削減余地はない
	事業の外部化(民営化・業務委託等)はできないか		3 外部化ができる事業はない
	関連・類似する事業の統合はできないか		3 統合できる事業はない
妥当性	各事業の実施に対する市民ニーズはあるか		1 市民ニーズは変わらずにある
	民間によるサービスで代替できる事業はないか		2 民間によるサービスで代替できる事業はあるが、民間による提供が不足している
有効性	事業の上位施策に向けた貢献度はどうか		2 目的達成のために手段(最小事業)を改善する余地がある
公平性	受益者負担は公正・公平か	○.負担導入済	○-2 適正な受益者負担を導入している
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済	○-2 市民等と協働して適切に事業を実施している
			協働実施済の場合のパートナー 交通事業者、駐車場管理者

(3) 総合評価 ※最小事業評価を踏まえて、今年度以降の取組方針等を記載する

【今後の方針】

☐ 拡充☐ 改善・変更☒ 現状維持☐ 縮小☐ 休止・廃止

・パークアンドライドは、鎌倉地域外縁部の駐車場に停車し、公共交通へ転換を図ることで交通渋滞解消などを図ることを目的に、神奈川県や関係交通事業者の協力を得て実施しており、また鎌倉フリー環境手形は、社寺及び店舗等の協力のもと特典等のサービスが受けられるものとなっており、「特典ご利用の手引き」(以下「手引き」という。)の発行は、鎌倉フリー環境手形の利用促進に繋がるものであることから、市の役割として手引きの事業費を削減できるものではないと考えており、他の事業との統合も出来ないと考えている。

・パークアンドライド等は、駐車場が国道134号沿道で実施しており、他のルートからの流入車両による対応が未実施であったことから、関係事業者の協力を得て、令和3年度に大船パークアンドライドの運用を開始した。

・令和6年には、江ノ電稲村ヶ崎駅の無人化に伴い、チケット販売等が困難となり、稲村ガ崎パークアンドレールライドが休止となっているため、再開に向けた対策が必要である。

【参考】

◎事業実施に係る主な指標

指標(単位)	パークアンドライド、鎌倉フリー環境手形の利用数						単位	台+枚
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
当該事業の実施によって、自動車から公共交通への転換を図っているため。	目標値	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	38,000	
	実績値	3,587	3,541	10,717	9,196	8,021		
	達成率	9.4%	9.3%	28.2%	24.2%	21.1%		

指標(単位)	沿線住民等の利用状況						単位	人
指標設定理由	年次	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
沿線住民等が優先的に駅構内に入場できる取組であるため。	目標値	150	150	150	200	200	200	
	実績値	-	-	-	46	-		
	達成率	-	-	-	23.0%	-		

◎他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項								
団体名	鎌倉市							
他市実績								

当該事業実施に伴う
他市比較に関する考え方